
スタンガン

佐藤佑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スタンガン

【Nコード】

N3035S

【作者名】

佐藤佑

【あらすじ】

適当な話。ある意味「ひのこ」より適当。

「最近のヒロインはスタンガンを持っているのか」
俺は誰にともなくつぶやいた。

それが今日の朝。

そして今・・・

「私と付き合ってくれない？」

実にライトノベルな出来事が起こっていた。

俺は数秒考えた後こう答えた。

「すまん、お前のことはそういう風には・・・」
バチッ

最期まで言えずに後ろから破裂音。

背中には木の破片がぶつかる感触。

「マジでスタンガン持ってるのかよ・・・」

「あら、あなたが最近のヒロインはみんな持ってるって言ってたから。」

にこやかに笑う彼女はとても変質者じみていた。

「でも、私の攻撃を避けるなんてやるわね。」

「避けられない攻撃を仕掛けたのかよ・・・」
びっくりだ。

「何かの特殊能力？」

彼女はいきなり核心をついてきた。

「高速移動。」

俺は、そっけなく答える。

そして聞き返す。

「お前は？」

「あらゆる武器を使いこなす能力。」

おお、「あらゆる」とかついていてそれっぽいし、
能力も使い魔っぽい。

まあ、俺がぎりぎりの攻撃を仕掛けてくるあたり、常人じゃないとは思っていたが・・・

「それじゃ、私に付き合ってちよっと異能者の逮捕を手伝ってくれる？」

勘違いした自分が憎い

「付き合ってくれるよね？」

彼女の問いに俺はこう答えた。

「ああ。」

「やったあ！」

喜ぶ彼女。そして・・・

「よろしくね、私の彼氏♪」

その時の彼女の笑顔はとても常人とは思えなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3035s/>

スタンガン

2011年10月8日19時59分発行